
待ち人、来る

深月姫季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
待ち人、来る

【Nコード】
N3742M

【作者名】
深月姫季

【あらすじ】
新一が消えて数年、蘭はそれでも愛しい人を待ち続けていた。

もう、夏になろうとしていた。新一が消えてから、三度巡った季節。

「ねえ、新一。連絡もしないで、何処にいるのよ、全く大バカ推理之介なんだから……」

声を出してばやいてみても、空しさが心に積もるだけ。

帝丹高校を新一が休学のまま卒業して、今。蘭は大学の社会学部にいる。この進路は、少なからず行方不明の幼馴染に影響されているのだけれど。高2の冬から、張本人と全く連絡が取れなくなってしまうていた。そして、同時期に、新一と入れ替わるようにやって来た江戸川コナンも、蘭に直接理由を語ることなく姿を消した。

後から博士に聞いた話によると、急な事情で両親のいるアメリカへ行つたらしい。同級生たちも、何度か事務所にやって来ては、彼の不在を痛感し、落胆した表情を浮かべていた。

そして今　　蘭は新一の家の前に来ている。もちろん、彼はいない。

工藤新一＝江戸川コナン

蘭は確信を抱いていた。いくら姿かたちが変わっても、ずっと見てきたのだから……蘭には小さな癖、仕草、口調から彼の存在証明を確かめていた。そして、その姿がある限り、心のバランスは保たれ続けていた。だからコナンの不在は、新一に何かあった事を示し

ている。

一月に一回は、誰もいない彼の家を掃除するのが、蘭の癖だ。待ち続けても、心を躍らせても、彼は帰ってこない。何の音沙汰もない。電話はコナンの消えた数週間後に解約され、二度とかかることはない。

『もしかしたら、彼は死んだのかも知れない』

その可能性を、否定し続けてきたのだ。彼の口から、真実を聞くまでは、どんなことも信じない。だから、蘭は欠かさず、幼馴染の家を訪ね続ける。

「ただいま」

そう、はにかんだ幼馴染が帰ってくるのを待ったために。蘭にも伝えたい言葉があった。

「あーあ、またこんなに埃かぶってる」

書斎の机をずらし、丹念に箒で掃く。机の上には勝手に飾った二人で最後に行ったトロピカルランドで撮った写真。不意にそれを見て、涙が出る。満面の笑顔で写る自分が、羨ましい。まさか数十分後に、消えると思わなかった。

「新一、生きてるの？」

小さく呟く。

蘭は感傷に浸っていて、玄関の開く音が聞こえなかった。

「ねえ、新一。何処にいるの？連絡ぐらいしなさいよね！」

言葉を発するたびに、腹立たしくなつて、気持ちが高ぶる。

そんな蘭の背後で、聞こえるはずが無い声がした。

「蘭、お前……どうしてここに」

「……新一！」

思わず持っていた箸を取り落とす。

確かに、17歳の新一でもなく、7歳の少年の新一でもなく、そこには少し大人になった幼馴染が立っていた。蘭と同じ年。

「……突然消えて、心配したんだから！哀ちゃんも消えて、少年探偵団のみんなも心配してたんだから！」

蘭の言葉に、新一が大きく目を見開く。

「全部、知ってたのか……？……連絡できなくて、悪かったな」

追及したいと言う気持ちもあったが、今捕まえないとまた逃げられる気がして、蘭は新一に抱きついた。目からは、封印していた大粒の涙が零れ落ちる。

「お帰り、……お帰り、新一……」

「蘭…」

新一は成長した蘭を抱きしめる事を躊躇したが、一瞬の後 優しく手を頭に ポン、と乗せた。

「…ただいま、蘭」

「好き…」

震える唇でそう呟いた蘭に、新一は優しく囁いた。

「展望レストランで言いそびれたこと、確かに工藤新一の口から言う。長い間待たせた…オレと結婚してください」

蘭は泣きながら笑った。これまでの辛かった事が、その一言ですっと、消えていく感じがした。

「し…んいち」

涙声で、あまり上手く伝えられなかったが、蘭は確かに肯いた。照れくさそうに微笑む新一の表情は、何も変わっていない。

二人は抱きしめあいながら、互いの存在を感じていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3742m/>

待ち人、来る

2010年10月9日15時10分発行